

作成日：2002年9月20日

改定日：2021年7月19日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 : 液体苛性ソーダ
会社名 : 株式会社カトウケミカル
住所 : 〒514-0816 三重県津市高茶屋小森上野町 1346-4
担当部門 : 営業部
電話番号 : 059-234-3781
FAX番号 : 059-234-1351
緊急連絡先の電話番号 : 059-234-3781
推奨用途及び使用上の制限 : 本製品は業務用（工業用）で、主な用途は 人絹・スフ・セロハン・合成繊維等の製造、染料中間物・香料・医薬品等の製造、油脂の製造、石鹼等の製造、各種ソーダ塩類の製造、水の軟化剤、アルカリ蓄電池の電解液、化粧品原料等 です。食品用・医療用および農薬用その他特殊用途に使用される場合には、貴社にて事前に安全性をご確認の上、ご使用下さい。体内に埋植注入したり、または体内に本製品の一部が残留する恐れのある用途には使用しないで下さい。

2. 危険有害性の要約

【GHS分類】

物理的危険性

: 爆発物 分類対象外
: 可燃性又は引火性ガス（化学的に不安定なガスを含む） 分類対象外
: エアゾール 分類対象外
: 支燃性又は酸化性ガス 分類対象外
: 高圧ガス 分類対象外
: 引火性液体 区分外
: 可燃性固体 分類対象外
: 自己反応性化学品 分類対象外
: 自然発火性液体 区分外
: 自然発火性固体 分類対象外
: 自己発熱性化学品 区分外
: 水反応可燃性化学品 区分外
: 酸化性液体 区分外
: 酸化性固体 分類対象外
: 有機過酸化物 分類対象外

健康有害性

: 金属腐食性物質 区分 1
: 急性毒性（経口） 区分 3
: 急性毒性（経皮） 分類できない
: 急性毒性（吸入：気体） 分類対象外
: 急性毒性（吸入：蒸気） 分類できない
: 急性毒性（吸入：粉じん、ミスト） 分類できない
: 皮膚腐食性又は皮膚刺激性 区分 1
: 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分 1
: 呼吸器感作性 分類できない
: 皮膚感作性 区分外
: 生殖細胞変異原性 区分外
: 発がん性 分類できない
: 生殖毒性 分類できない
: 特定標的臓器毒性（単回ばく露） 区分 1（呼吸器系）
: 特定標的臓器毒性（反復ばく露） 分類できない
: 吸引性呼吸器有害性 分類できない

環境有害性 : 水生環境有害性(急性) 区分3
 : 水生環境有害性(長期間) 区分外
 : オゾン層への有害性 分類できない

【GHS ラベル要素】

絵表示



注意喚起語 : 危険
 危険有害性情報 : 金属腐食のおそれ
 飲み込むと有毒
 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
 臓器の障害(呼吸器系)
 水生生物に有害

注意書き

【安全対策】

: 他の容器に移し替えないこと。
 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
 取扱い後は手をよく洗うこと。
 この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。
 環境への放出を避けること。
 適切な保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

【応急措置】

: 飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。
 飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
 皮膚（または髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと皮膚を流水、シャワーで洗うこと。
 吸入した場合：被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
 皮膚に付着した場合、眼に入った場合、飲み込んだ場合、吸入した場合：直ちに医師に連絡すること。
 飲み込んだ場合、口をすすぐこと。
 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
 物的被害を防止するためにも流出したものを吸収すること。

【保管】

: 施錠して保管すること。
 耐腐食性、耐腐食性内張りのある容器に保管すること。

【廃棄】

: 内容物や容器を国際、国、都道府県、市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物
 一般名 : 水酸化ナトリウム

| 化学物質等の名称 | 含有量(%) | 化学式 | 官報公示整理番号 | | CAS 番号 |
|----------|---------|------------------|----------|-------|-----------|
| | | | 化審法番号 | 安衛法番号 | |
| 水酸化ナトリウム | 10 - 50 | NaOH | 1-410 | 公表 | 1310-73-2 |
| 水 | 50 - 90 | H ₂ O | 対象外 | 対象外 | 7732-18-5 |

分類に寄与する不純物及び安定化添加物 : 情報なし

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 被災者を空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
直ちに医師に連絡すること。診断、手当てを受けること。
- 皮膚に付着した場合 : 直ちに汚染された衣服を全て脱ぐこと。皮膚を流水またはシャワーで洗うこと。
直ちに医師に連絡すること。診断、手当てを受けること。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
医師の指示なく、油類その他の薬を薬傷部に塗ってはならない。
- 眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
瞼を開き水が前面にゆきわたるように行う。眼球を傷つける可能性があるため、目をこすったり固く閉じさせてはならない。
直ちに医師に連絡すること。診察、手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合 : 直ちに医師に連絡すること。
意識があれば、水で口の中をよく洗浄し、直ちに医師の手当てを受けること。
意識がない場合は、口から何も与えてはならない。
腐食性の製品なので、吐き出させると危険性が増すので無理に吐かせないこと。
- 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状 : 発赤、痛み、肺水腫、腹痛、ショック
吸入、接触量が多いほど腐食性の症状は急激である。肺水腫等の症状は、遅れて発現する場合がある。
吸入：灼熱感、咽頭痛、咳、息苦しさ、息切れ、肺水腫。症状は遅れて現れることがある。
皮膚接触：発赤、痛み、重度の皮膚熱傷、水疱
眼：発赤、痛み、かすみ眼、重度の熱傷
経口摂取：灼熱感、腹痛、ショックまたは虚脱
- 応急措置をする者の保護 : 汚染された衣類や保護具を取り除く。
救助者が有害物に触れないよう手袋を使用するなど注意する。
誤飲または吸入の被災者に人工呼吸をする場合には口対口法を用いてはいけない。
逆流防止バルブの付いたポケットマスクや医療用呼吸器を用いて人工呼吸を行う。
- 医師に対する特別な注意事項 : 情報なし

5. 火災時の措置

- 適した消火剤 : 本製品は不燃性である。周辺火災に適した消火剤を使用する。
粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂等、周辺火災に適した消火剤を使用する。
- 使ってはならない消火剤 : 情報なし
- 消火を行う者の保護 : 消火作業の際は、耐熱手袋、ゴーグル型保護眼鏡、空気呼吸器、保護衣(耐熱性)、ゴム長靴を着用する。
- 特有の危険有害性 : 不燃性であるが、加熱されると腐食性および毒性のヒュームを発生するおそれがある。
水分や水に接触すると、可燃性物質の発火に十分な熱を発生する。
加熱により容器が爆発する恐れがある。
- 特有の消火方法 : 消火作業は風上から行う。
移動不可能な場合は、容器およびその周辺に散水して冷却し、容器の破損を防ぐ。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
容器内に水を入れてはいけない。

6. 漏出時の措置

| | |
|--------------------------|---|
| 人体に対する注意事項 保護具及び緊急時措置 | : 漏出時の処理を行う場合には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣を着用すること。 漏出した場所の周辺にロープを張るなどして、関係者以外の立入りを禁止する。 作業は風上から、保護具を着用して行う。 |
| 環境に対する注意事項 | : 製品が河川等に排出され、環境への影響を起さないように回収などの措置を講ずる。 |
| 回収・中和方法 | |
| 少量の場合 | : 乾燥砂、土、おがくず、ウエス等により、出来るだけ密閉できる空容器に回収する。 |
| 大量の場合 | : 土砂等で流出防止用の堤防を作り、空容器に回収するか、または土砂等に吸収させてから容器に回収する。できるだけ取り除いたあと、漏出した場所は多量の水で洗い流す。この場合濃厚な廃液が、下水溝、河川等に流入しないように注意する。 |
| 封じ込め及び浄化方法及び機材 | : 漏洩物を掻き集めて、空容器に回収する。 汚染区域を希酸（希塩酸、希硫酸、酢酸など）で中和し、大量の水で希釈して洗い流す。 本製品は強アルカリなので、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。必要があればさらに希塩酸、希硫酸などで中和する。 処理後の土砂については、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託する。 |
| 二次災害の防止策 | : 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。 |

7. 取扱い及び保管上の注意

| | |
|-------------------|--|
| 取扱い | |
| 技術的対策（局所排気・全体換気等） | : 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 取り扱う場合は、局所排気内、または全体換気の設備のある場所で行なう。 |
| 安全取扱注意事項 | : アルカリ性なので、酸性の製品との接触をさける。 屋外または換気の良い区域でのみで使用する。 この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。 取扱い後は手をよく洗うこと。 接触、吸入または飲み込んではいない。 眼、皮膚との接触を避ける。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 環境への放出を避けること。 |
| 接触回避 衛生対策 | : 『10. 安定性及び反応性』を参照。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 |
| 保管 | |
| 技術的対策 | : 保管場所には製品を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。 |
| 混触危険物質 安全な保管条件 | : 『10. 安定性及び反応性』を参照。 アルカリ性なので、酸性の製品とは同一場所に保管しない。 容器を密閉して、通気をよくし、蒸気が滞留しない冷所で保管すること。 金属類、食品や飼料から離して保管する。 耐腐食性、耐腐食性内張りのある容器に保管すること。 施錠して保管すること。 |
| 安全な容器包装材料 | : 軟鋼、銅、アルミニウム、亜鉛には腐食性があるため、ステンレスまたはポリエチレン製の容器に保管する。 |

8. ばく露防止及び保護措置

| | |
|----------------|--|
| 管理濃度 | : 未設定 |
| 許容濃度（日本産業衛生学会） | : (最大許容濃度) 2mg/m ³ (2020年度版) |
| 許容濃度（ACGIH） | : TLV-STEL Ceiling 2mg/m ³ (2019年版) |
| 設備対策 | : この物質を貯蔵および取扱う作業場の近くに手洗い、洗眼設備と全身シャワーを設置すること。設置位置を明瞭に表示すること。 作業所の十分な換気を確保する。 |
| 保護具 | |
| 呼吸用保護具 | : 防塵マスク、空気呼吸器 |
| 手の保護具 | : 適切な保護手袋を着用すること。 ニトリルゴム、および塩ビは適切な保護材料ではない。 ネオプレンが推奨される。 |
| 眼の保護具 | : 化学飛沫用のゴーグルおよび適切な顔面保護具を着用すること。 撥ね飛びまたは噴霧によって眼および顔面接触が起こりうるときは、包括的な化学スプラッシュゴーグル、および顔面シールドを着用すること。 |
| 皮膚及び身体の保護具 | : 飛沫が飛ぶ可能性のあるときは、全身の化学用保護衣（耐アルカリ性スーツ等）を着用する。一切の接触を防止するにはネオプレン製の手袋、エプロン、ブーツ、または全身スーツ等の不浸透性の防具を適宜着用すること。 |

9. 物理的及び化学的性質

| | |
|---------------------------|--|
| 外観 | |
| 物理的状态、形状 | : 水溶液。液体。濃度、温度により固化することがある。 |
| 色 | : 無色、灰色 |
| 臭い | : 無臭 |
| pH | : 14 (1mol/L) |
| 融点 | : 11°C (48%水溶液) |
| 沸点 | : 138°C (48%水溶液) |
| 引火点 | : 該当しない (不燃性液体) |
| 燃焼性(固体、気体) | : 非該当、不燃性 |
| 燃焼又は爆発範囲(下限、下限) | : 該当しない (不燃性液体) |
| 蒸気圧 | : データなし |
| 相対蒸気密度 | : データなし |
| 比重 | : 1.50g/cm ³ (48%、20°C) |
| 溶解度 | : 42g/100ml (0°C、苛性ソーダ固体として) 109g/100ml (20°C、苛性ソーダ固体として) |
| n-オクタノール/水の分配係数 (log Kow) | : -3.88 |
| 自然発火温度 | : 該当しない (不燃性液体) |
| 分解温度 | : データなし |
| 粘度 (粘性率) | : データなし |

10. 安定性及び反応性

| | |
|-----------|---|
| 反応性 | : この製品自体は不燃性であり、それ自身は燃えない。 爆発、発火などの危険性はないが、酸と接触した場合には激しく発熱する。 |
| 化学的安定性 | : 通常の条件下では安定な物質である。 空気中の炭酸ガスを吸収して、炭酸ナトリウムを生成することがある。 |
| 危険有害反応可能性 | : アルカリ性なので、酸と反応し発熱する。 アルミ、錫、亜鉛、クロムなどの金属と反応して、可燃性の水素を発生し、これが空気と混合して引火爆発することがある。 |

| | |
|------------|--------------------------------|
| | 水で希釈すると希釈熱が発生する。 |
| | アンモニウム塩と反応して、アンモニアガスを発生させる。 |
| 避けるべき条件 | : 水、湿った空気、混触危険物との接触。 |
| 混触危険物質 | : 酸化剤、強酸、銅、亜鉛、アルミニウムおよびこれらの合金。 |
| 危険有害な分解生成物 | : 情報なし |

11. 有害性情報

| | |
|-----------------|---|
| 急性毒性（経口） | : つなぎの法則から、区分 3 とした。 LD ₅₀ 経口 ラット : 325 mg/kg 固形苛性ソーダ |
| 急性毒性（経皮） | : データなし |
| 急性毒性（吸入: 気体） | : GHS 定義で液体であるので、分類対象外。 |
| 急性毒性（吸入: 蒸気） | : データなし |
| 急性毒性（吸入: 粉じん） | : GHS 定義で液体であるので、分類対象外。 |
| 急性毒性（吸入: ミスト） | : データなし |
| 皮膚腐食性/皮膚刺激性 | : pH が 11.5 以上であるので、区分 1 とした。 |
| 眼に対する重篤な損傷/刺激性 | : pH が 11.5 以上であるので、区分 1 とした。 |
| 皮膚感作性 | : 0.1%以上含まれる成分が、呼吸器感作性および皮膚感作性の可能性を示すデータはない。 |
| 呼吸器感作性 | : データなし |
| 生殖細胞変異原性 | : 製品あるいは製品に 0.1%以上含まれる成分が、突然変異原性または遺伝子毒性をもつことを示すデータはない。 |
| 発がん性 | : データ不足のため分類できない。 |
| 生殖毒性 | : データなし |
| 特定標的臓器毒性（単回ばく露） | : 特定標的臓器毒性（単回ばく露）区分 1 の成分が $\geq 10\%$; 区分 1（臓器；呼吸器、経路；経口、吸入）。 |
| 特定標的臓器毒性（反復ばく露） | : データなし |
| 吸引性呼吸器有害性 | : データなし |

水酸化ナトリウムの有害性情報

| | |
|----------------|--|
| 急性毒性（経口） | : ウサギの LD ₅₀ 値 325mg/kg (SIDS, 2002) のデータのみで、げっ歯類のデータがないため、分類できないとした。 |
| 急性毒性（経皮） | : データなし。 LD ₅₀ 経皮 ウサギ: 1350mg/kg |
| 急性毒性（吸入: 気体） | : GHS の定義における固体である。 |
| 急性毒性（吸入: 蒸気） | : データなし。 |
| 急性毒性（吸入: 粉じん） | : データなし。 |
| 皮膚腐食性/皮膚刺激性 | : ブタの腹部に 2N(8%)、4N(16%)、6N(24%) 溶液を適用した試験で、大きな水疱が 15 分以内に現れ、8%および 16%溶液は全表皮層に重度の壊死を生じ、24%溶液においては皮下組織の深部に至る壊死を伴う無数かつ重度の水疱が生じたとの報告[SIDS(2009)]、およびウサギ皮膚に 5%水溶液を 4 時間適用した場合に重度の壊死を起こしたとの報告 (ACGIH(7th, 2001)) に基づき区分 1 とした。 なお、pH は 12(0.05% w/w) [Merck(14th, 2006)] である。また、ヒトへの影響では、皮膚に対して 0.5%-4%溶液で皮膚刺激があり、0.5%溶液を用いた試験でボランティアの 55 および 61%に皮膚刺激があったとの報告(SIDS(2009))がある。EU 分類では C、R35 に分類されている。 |
| 眼に対する重篤な損傷/刺激性 | : ウサギ眼に対し 1.2%溶液ないし 2%以上の濃度が腐食性濃度との記述[SIDS(2009)]、pH は 12(0.05% w/w) [Merck(14th, 2006)] であることから区分 1 とした。ヒトの事故例で高濃度の粉塵または溶液により重度の眼の障害の報告[ACGIH(7th, 2001)]や誤って眼に入り失明に至るような報告[DFGOTvol. 12(1999)]が多数ある。なお、皮膚に対しても腐食性を示し、EU 分類では C、R35 に分類されている。 |
| 皮膚感作性 | : 男性ボランティアによる皮膚感作性試験で、背中に 0.063%-1.0%溶液を塗布して誘導をかけ、7 日後に 0.125%溶液を再塗布したが、用量依存性の刺激増強はあったが、再塗布したパッチ面の反応の増強は認められなかった。したがって、水酸化ナトリウムには皮膚感作性がな |

| | |
|-----------------|---|
| 呼吸器感作性 | : データなし。 |
| 生殖細胞変異原性 | : <i>in vivo</i> 試験のデータとして、マウスに腹腔内投与による骨髓細胞を用いた小核試験（体細胞 <i>in vivo</i> 変異原性試験）で小核の有意な増加は観察されず（SIDS(2009)）、またマウスに腹腔内投与による卵母細胞を用いた染色体異数性誘発試験（生殖細胞 <i>in vivo</i> 変異原性試験）では染色体不分離の証拠は見出されていない（SIDS(2009)）。これらの結果は体細胞及び生殖細胞を用いた <i>in vivo</i> 変異原性試験の結果が陰性であることを示しているため区分外とした。なお、 <i>in vitro</i> 変異原性試験として、Ames 試験で陰性[SIDS(2009)]、CHO K1 細胞を用いた染色体異常試験で偽陽性[SIDS(2009)]の報告がある。 |
| 発がん性 | : ラットの経口投与 12 週間の発がん性試験で陰性[DFGOTvol. 12(1999)]などの報告があるがデータ不足で分類できない。 |
| 生殖毒性 | : データなし。 |
| 特定標的臓器毒性（単回ばく露） | : 粉塵やミストの急性吸入ばく露により粘膜刺激に続き、咳・呼吸困難などが引き起こされ、さらにばく露が強いと肺水腫やショックに陥る可能性がある（PATTY(5th, 2001)という記述により区分 1（呼吸器）とした。なお、潮解性や極小の蒸気圧などの物理化学特性から粉塵形成はあり得ない[SIDS(2009)]との記述もある。そのほか、誤飲 28 症例で、推定 25-37%溶液 50~200ml により上部消化管と食道の傷害が認められたとの報告（SIDS(2009)）や、深刻な（誤飲）事故や自殺症例報告は多数あり口腔から食道までの重度の腐食を引き起こしたとする記述（DFGOTvol. 12(1999)）もある。 |
| 特定標的臓器毒性（反復ばく露） | : 経口、経皮、吸入またはその他の経路による反復ばく露の動物試験データはない（SIDS(2009)）と記述され、また、ヒトに対する影響のデータもほとんどないので、データ不足で分類できない。また、ラットでのエアゾル吸入反復ばく露で肺に障害を与えたとの記述（ACGIH(7th, 2001)）があるが、ばく露濃度が不明のため分類できない。なお、潮解性や極小の蒸気圧などの物理化学特性から粉塵形成はあり得ない[SIDS(2009)]との記述がある。 |
| 吸引性呼吸器有害性 | : データなし。 |

12. 環境影響情報

| | |
|--------------|--|
| 生態毒性 | |
| 水生環境有害性(急性) | : つなぎの法則から、水生環境有害性(急性)区分 3 とした。 |
| 水生環境有害性(長期間) | : 水溶液が強アルカリ性となることが毒性の要因と考えられるが、環境水中では緩衝作用により毒性影響が緩和される。また、水酸化ナトリウムの $\log K_{ow} = -3.88$ から残留性は低いと判断して区分外とした。 |
| 魚毒性／その他 | : 情報なし |
| 残留性・分解性 | : 急速分解性でない |
| 生体蓄積性 | : 情報なし |
| 土壤中の移動性 | : 情報なし |
| オゾン層への有害性 | : モントリオール議定書に指定された物質を含まない。 |

13. 廃棄上の注意

| | |
|-------|--|
| 残余廃棄物 | : 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこ委託して処理する。廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上、処理を委託する。 |
|-------|--|

水を加えて希薄な水溶液とし、酸（希塩酸、希硫酸）で中和した後、多量の水で希釈して処理する。
廃アルカリは特別管理産業廃棄物に指定されており、収集・運搬・処分は定められた基準に従って処理する。
汚染容器・包装 : 使用済み包装容器は、内容を完全に除去した後、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報 : IMO の規定に従う。
UN-No. : UN1824
Proper Shipping Name : SODIUM HYDROXIDE SOLUTION
Class : 8
Packing group : II
Marine pollutant : Not applicable
Transport in bulk : CODE Y
according to Annex II of
MARPOL 73/78 and the IBC
Code
航空規制情報 : ICAO/IATA の規定に従う。
UN-No. : UN1824
Proper Shipping Name : SODIUM HYDROXIDE SOLUTION
Class : 8
Packing group : II

国内規制

陸上規制 : 消防法、毒物及び劇物取締法、高压ガス保安法の規定に従う。

海上規制情報 : 船舶安全法の規定に従う。
国連番号 : UN1824
品名 : 水酸化ナトリウム（水溶液）
国連分類 : 8
容器等級 : II
海洋汚染物質 : 非該当
MARPOL 73/78 付属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質 : 該当（Y 類）

航空規制情報 : 航空法の規定に従う。
国連番号 : UN1824
品名 : 水酸化ナトリウム（水溶液）
国連分類 : 8
容器等級 : II

指針番号 : 154

特別な輸送上の注意 : 車両による運搬時は、運転者にイエローカードを携帯させる。
輸送作業は、取扱いおよび保管上の注意事項に留意して行う。
輸送に際しては直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行うこと。
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
重量物を上積みしない。

15. 適用法令

労働安全衛生法 : 名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第 57 条第 1 項、施行令第 18 条第 1 号、第 2 号・別表第 9）
水酸化ナトリウム（政令番号：319）
名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第 57 条の 2、施行

| | |
|-----------------------|--|
| | 令第18条の2第1号、第2号・別表第9) |
| | 水酸化ナトリウム(政令番号:319) |
| | 腐食性液体(労働安全衛生規則第326条) |
| | 水酸化ナトリウム |
| 労働基準法 | : 疾病化学物質(法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第4号1) |
| | 水酸化ナトリウム |
| 消防法 | : 非危険物 |
| 化審法 | : 一般化学物質 |
| 化学物質排出把握管理促進法(PRTTR法) | : 第1種指定化学物質及び第2種指定化学物質に該当しない(第2条、施行令別表第1、別表第2) |
| 毒物及び劇物取締法 | : 劇物(指定令第2条) |
| | 水酸化ナトリウムを含有する製剤 |
| 港則法 | : その他の危険物・腐食性物質(法第21条第2項、規則第12条、危険物の種類を定める告示別表) |
| 船舶安全法 | : 腐食性物質(危規則第2,3条危険物告示別表第1) |
| 航空法 | : 腐食性物質(施行規則第194条危険物告示別表第1) |
| 大気汚染防止法 | : 排出規制物質・特定物質・汚染物質・揮発性有機化合物に該当しない |
| 高圧ガス保安法 | : 高圧ガスに該当しない |
| 外国為替及び外国貿易法 | : 輸出貿易管理令別表第1の16の項(キャッチオール規制) |
| 麻薬及び向精神薬取締法 | : 麻薬及び向精神薬に該当しない |
| 海洋汚染防止法 | : 有害液体物質(Y類物質)(施行令別表第1) |
| 水質汚濁防止法 | : 指定物質(法第2条第4項、施行令第3条の3) |
| | 水酸化ナトリウム |
| 水道法 | : 有害物質(法第4条第2項)、水質基準(平15省令101) |
| | 水酸化ナトリウム |
| 下水道法 | : 施行令第9条の四の物質に該当しない |
| 火薬類取締法 | : 火薬類に該当しない |
| 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 | : 特別管理産業廃棄物(施行令第2条の4) |
| 土壌汚染対策法 | : 特定有害物質を含有しない |
| オゾン層保護法 | : 施行令別表の物質を含有しない |
| 悪臭防止法 | : 特定悪臭物質に該当しない |
| 農薬取締法 | : 農薬に該当しない。(法第1条の2) |
| 食品衛生法 | : 人の健康を損なう恐れのない添加物に該当する(施行規則別表第1) |
| | 指定添加物(用途:製造用剤) |
| 医薬品医療機器等法 | : 劇薬(法44条、施行規則第204条 別表3) |
| 道路法 | : 車両の通行の制限(施行令第19条の13、(独)日本高速道路保有・債務返済機構公示第12号・別表第2) |

16. その他情報

本データシートは JIS Z 7252 : 2014、JIS Z 7253 : 2012 に準じて作成しています。

記載内容の取扱い

記載内容は、現時点で入手できる資料、情報、データ等に基づいて作成されておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は通常の実施を前提としたものであり、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご使用ください。

以上